

## 安全データシート

## テトラメチルアンモニウムヒドロキシド五水和物

改訂日: 2024-05-09 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名 : テトラメチルアンモニウムヒドロキシド五水和物  
CB番号 : CB7111710  
CAS : 10424-65-4  
EINECS番号 : 200-882-9

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 研究開発用途にのみ使用。医薬品、家庭用品、その他の用途には使用しないでください。  
推奨されない用途 : なし

## 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## 2.1 GHS分類

皮膚腐食性 / 刺激性 (細区分1B), H314  
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 (区分1), H318  
水生環境有害性 短期 (急性) (区分2), H401  
水生環境有害性 長期 (慢性) (区分2), H411  
このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露), 経皮 (区分1), 肝臓, 胸腺, H372  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (区分1), 中枢神経系, H370  
急性毒性, 経皮 (区分1), H310  
急性毒性, 経口 (区分2), H300

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

## 絵表示

GHS05	GHS06	GHS08	GHS09

## 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

H370 臓器 (中枢神経系) の障害。

H372 反復してあるいは長期にわたり皮膚に接触すると、臓器 (肝臓, 胸腺) の障害。

H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

H300 + H310 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合は生命に危険。

#### 注意書き

#### 安全対策

P260 粉じんを吸入しないこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

#### 応急措置

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303 + P361 + P353 皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P304 + P340 + P310 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P391 漏出物を回収すること。

P361 + P364 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

#### 保管

P405 施錠して保管すること。

#### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

## 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C <sub>4</sub> H <sub>13</sub> NO · 5H <sub>2</sub> O
分子量	: 181.23 g/mol
CAS番号	: 10424-65-4
EC番号	: 200-882-9
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

---

## 4. 応急措置

## 4.1 必要な応急手当

### 一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

### 飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療が受けられないという例外的な状況のみ、嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20~40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。中和させようとしないこと。

## 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

## 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

# 5. 火災時の措置

## 5.1 消火剤

### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

### 適切な消火剤

水泡 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>) 粉末

## 5.2 特有の危険有害性

可燃性。

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)

炭素酸化物

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

## 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

## 5.4 詳細情報

ガス/蒸気/ミストを水スプレージェットで抑える(除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

# 6. 漏出時の措置

## 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: いかなる場合も、ほこりを生じさせたり吸い込んだりしないようにすること。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

## 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 慎重に行うこと。適切に廃棄すること。関連エリアを清掃のこと。ほこりが生じないようにすること。

## 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

# 7. 取扱い及び保管上の注意

## 7.1 安全な取扱いのための予防措置

注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

### 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 6.1A: 可燃性、急性毒性カテゴリー1および2 / 猛毒性危険物

### 保管条件

密閉のこと。乾燥。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。吸湿性あり 二酸化炭素に反応する。不活性ガス下に貯蔵する。空気に反応する。

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

# 8. ばく露防止及び保護措置

## 8.1 管理濃度

### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

## 8.2 曝露防止

### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

### 保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

身体 of 保護

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387 お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

物理状態	固体
色	データなし
臭い	アンモニア臭
融点 / 凝固点	融点 / 範囲: 67 - 73 °C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	非該当
可燃性 (固体、気体)	データなし
引火上限/下限または爆発限界	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
pH	14 at 約1,000 grm/l at 20 °C
粘度	動粘度 (動粘性率): データなし 粘度(粘性率): データなし
水溶性	2,200 grm/l at 15 °C
n-オクタノール / 水分配係数 (log 値)	log Pow: < -1.4 at 20 °C - 生物濃縮は予測されない。
蒸気圧	データなし
密度	データなし
比重	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	なし
データなし	

### 9.2 その他の安全情報

データなし

## 10. 安定性及び反応性

## 10.1 反応性

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が通常想定される。

## 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

## 10.3 危険有害反応可能性

次と激しく反応

強酸

強酸化剤

## 10.4 避けるべき条件

情報なし

空気 湿気を避ける。

## 10.5 混触危険物質

データなし

## 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

# 11. 有害性情報

## 11.1 毒性情報

### 急性毒性

症状: 飲み込むと、口内および喉に重症の火傷をおこすだけでなく、食道、胃に穴をあける危険性もある。

LD50 経皮 - ラット - オスおよびメス - 12.5 mg/kg

(専門家の判断)

症状: 皮膚への曝露後に重篤な全身作用を生じて死に至ることがある。

備考: (無水物)

(OECD 試験ガイドライン 423)

LD50経口- ラット - メス - 7.5 - 50 mg/kg

る。、症状が遅れて顕われることがある。

症状: 粘膜の炎症, 咳, 息切れ, おそれのある障害:, 気管の損傷, 吸入すると気管に浮腫を生じることがあ

### 皮膚腐食性 / 刺激性

(OECD 試験ガイドライン 404)

備考: (無水物)

結果: 腐食性 - 4 h

皮膚 - ウサギ

### 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

備考: 重篤な眼の損傷。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

## 生殖細胞変異原性

試験タイプ: Ames 試験

テストシステム: 大腸菌/ネズミチフス菌

方法: OECD 試験ガイドライン 471

結果: 陰性

備考: (無水物)

試験タイプ: 変異原性(ほ乳類での細胞試験): 染色体異常。

テストシステム: チャイニーズハムスター肺細胞

テストシステム: Mouse lymphoma test

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

結果: 陰性

方法: OECD 試験ガイドライン 476

試験タイプ: in vitro哺乳動物細胞遺伝子変異試験

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

備考: (無水物)

結果: 陰性

方法: OECD 試験ガイドライン 473

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

## 発がん性

データなし

## 生殖毒性

臓器の障害。 - 中枢神経系

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

- 肝臓, 胸腺

皮膚接触- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データなし

## 誤えん有害性

データなし

## 11.2 追加情報

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

吐き気

嘔吐

息切れ

意識消失

死亡

特定の条件で亜硝酸または硝酸に触れるとニトロソアミンの形成に至る。ニトロソアミンは動物実験で発癌性を呈している。

その他の危険な特徴を除外してはならない。

本品は特に慎重に取り扱うこと。

呼吸停止

全身への影響

咳, 息切れ, 頭痛, 吐き気, 嘔吐

反復投与毒性 - ラット - メス - 経口 - 28 d - 無毒性レベル - 10 mg/kg

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

#### 魚毒性

流水式試験 LC50 - *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ) - 462 mg/l  
- 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

備考: 値は以下の物質と同様に得られる。塩化テトラメチルアンモニウム  
ミジンコ等の水生無脊椎動物

止水式試験 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 3 mg/l - 48 h

#### 椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

備考: (無水物)

#### 藻類に対する毒性

止水式試験 ErC50 - *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻) - 96.3 mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

備考: (無水物)

止水式試験 最大無影響濃度 - *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻) - 6.25  
mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

備考: (無水物)

#### 微生物毒性

止水式試験 EC50 - 活性汚泥 - > 503 mg/l - 3 h

(OECD 試験ガイドライン 209)

### 12.2 残留性・分解性

#### 生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 100 % - 易分解性。

(OECD テストガイドライン 301B)

備考: (無水物)

生化学的酸素要求量 (BOD)

0.08 mg/g

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし



## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 12.6 内分泌かく乱性

データなし

## 12.7 他の有害影響

報

生態系に関する追加情報 環境への放出は必ず避けなければならない。

---

# 13. 廃棄上の注意

## 13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

# 14. 輸送上の注意

## 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制) : 3423 IMDG (海上規制) : 3423 IATA-DGR (航空規制) : 3423

## 14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制) : Tetramethylammonium hydroxide, solid

IMDG (海上規制) : TETRAMETHYLAMMONIUM HYDROXIDE, SOLID

ADR/RID (陸上規制) : TETRAMETHYLAMMONIUM HYDROXIDE, SOLID

## 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制) : 8 IMDG (海上規制) : 8 IATA-DGR (航空規制) : 8

## 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制) : II IMDG (海上規制) : II IATA-DGR (航空規制) : II

## 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制) : 非該当  
非該当

## 14.6 特別の安全対策

なし

## 14.7 混触危険物質

---

# 15. 適用法令

## 15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

### 国内適用法令

#### 消防法:

危険物に該当しない。

#### 毒物及び劇物取締法:

毒物 - テトラメチルアンモニウム=ヒドロキシド

### 労働安全衛生法

#### 特定化学物質障害予防規則:

非該当

#### 有機溶剤中毒予防規則:

非該当

#### 名称等を通知すべき危険物及び有害物:

非該当

#### 名称等を表示すべき危険物及び有害物:

非該当

#### 化学物質排出把握管理促進法:

非該当

### 化審法

優先評価化学物質

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

### 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。